

## 日立財団50年のストーリー「みちのり」

日立財団は今年50周年という大きな節目を迎えました。5つの財団が合併した日立財団には、歴史も5つあり、貴重な文献や写真が多く残されていました。この記念すべき50周年に、それらの歴史をまとめ、多くの方々に日立の財団活動50年のストーリーを知ってもらいたい、そうした思いから、歴史の集大成となる「みちのり」の制作を進めています。日立財団サイトで2017年10月末に公開予定です。

### ●書籍の整理

編集作業は、書籍の整理と頭の整理から始めました。5つの財団の創設者の思いや、設立の経緯や写真、記録ビデオや16ミリのフィルムも発見され、歴史を感じながら紐解いていきました。



### ●古い資料と格闘

ネガのない古い写真や設立当初の古いファイルは手書きや和紙素材の書類が多く慎重に取扱いながらデジタル化を進めました。書類は数多くあるのですが内容が繋がらないところもあり苦戦。OBや関係者へのヒアリングで歴史が一つになりました。



### ●出会い

今年で49回を迎える研究助成事業の倉田奨励賞。その受領者でノーベル化学賞を受賞された野依氏にお話をうかがいました。野依氏は昭和44年(第2回)と昭和52年(第10回)の受領者で「みちのり」へ大変貴重なコメントをいただきました。



### ●編集に関して

50年前の社会課題の解決のための試行錯誤や、「広く世の中のために貢献する」という思いの原点にふれ、これからも誇りをもって財団事業を推進していきたいと感じています。日立財団50年のストーリー「みちのり」をぜひ多くの皆様に見ていただきたいと思います。乞うご期待!

## 上期イベントカレンダー (2017年4月1日～9月末)

日程	領域	事業	内容
5月12日	学術・科学技術の振興	日立スカラシップ	2017年度 招聘者発表
6月7日	人づくり	理工系女子応援プロジェクト	Webサイト「わたしのあした」公開
6月9日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	出張授業実施 (於 和歌山大学教育学部附属小学校)
6月30日	学術・科学技術の振興	倉田奨励金	2017年度 募集開始 (締切: 9月20日)
7月4日	学術・科学技術の振興	日立スカラシップ	2018年度 募集開始 (締切: 10月31日)
7月11日	人づくり	日立みらいイノベータープログラム	日立グループCSR責任者向け「日立みらいイノベータープログラム説明会」実施
7月22日	人づくり	理工系女子応援プロジェクト	ワークショップ「未来をつくるリケジョたち!」実施 (於 講談社)
8月8日～10日	人づくり	日立サイエンスセミナー	「夏休み!日立サイエンスウィーク」実施 (於 科学技術館)
8月19日～21日	地域コミュニティ支援	竹内亀次郎記念杯 日南市少年少女スポーツ育成大会	スポーツ大会実施 (於 茨城県日立市)
8月25日	人づくり	理工系人財育成支援	教育フォーラム「変わる教育と日本の未来」開催 (於 日本工業倶楽部会館)
8月28日～30日	学術・科学技術の振興	日立スカラシップ	奨学生「夏季研修旅行」実施 (於 京都・奈良)
9月5日	地域コミュニティ支援	小平奨励賞	2017年度受賞者決定

## 編集後記

今回の1面では「理工系人財育成支援事業」の一環として初めて開催した「教育フォーラム」の特集しました。昨年度に開発した日立財団の教育支援プログラム「日立みらいイノベータープログラム」を対外的に発信する初年度を迎えることができました。

「人づくり」に長年携わっていた日立の財団活動の成り立ちを考えると、「人づくり」の土台である「教育」とは非常に深く関係しているといえます。(今後も教育を通じた社会課題解決への貢献は日立財団の重要なミッションであると感じています。)

また2017年度は東南アジアの学術・科学技術の発展に貢献してきた「日立スカラシップ」事業についても、倉田奨励金と同様に、より社会課題の解決に重点を置いてプログラム内容を変更しました。

こうした取り組みの一方で、日立の財団活動50年の歴史の重みにも目を向けました。財団活動の礎となっている先達の思いを現代に復活させるべく、日立財団50年のストーリー「みちのり」の制作を進めています。10月末に公開予定ですのぜひご覧ください。

## 公益財団法人 日立財団

〒100-8220 千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階  
TEL 03-5221-6675 FAX 03-5221-6680  
E-mail: hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

### ●日立財団のウェブサイト

<http://www.hitachi-zaidan.org>

発行日: 2017年10月10日発行  
発行責任者: 田村光範 / 編集責任者: 高野美樹 / 印刷: (株)クリエイターズギルド

日立財団 人を育み、未来へ繋ぐ

50<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY

HITACHI  
Inspire the Next

# NewsLetter

Vol.29 / 2017.10

日立財団では、年に2回、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください!

## 人づくり

### ▼教育フォーラム

## 「変わる教育と日本の未来」を開催

2017年8月25日、「日本工業倶楽部会館」において、教育フォーラム「変わる教育と日本の未来～未来を創造(イノベート)する人財育成を考える～」を開催しました。当日は教育関係者、日立グループ社員その他一般の方々を含め約120名が参加し、テーマへの関心の高さが伺われました。最後に設けた参加者同士の交流タイムでも、教育の話に花を咲かせる人たちで盛況でした。

「科学技術の振興」をルーツとする日立の財団活動は、青少年の育成や幼児・家庭教育に代表される「人づくり」に長らく携わってきました。その「人づくり」の土台である「教育」を通じた社会課題解決に貢献したいという思いから、現在は科学技術の発展を担う次世代の人財育成をめざす「理工系人財育成支援事業」を展開しています。本フォーラムはその一環として、広く教育トレンドを発信し、企業や教育現場の垣根を越えて、社会全体で教育の未来について考える機会を提供すること、また、日立財団の教育支援活動に対してご意見を頂くことを目的に初めて開催したものです。

今、予測困難な時代に一人ひとりが未来の創り手になることを教育の基本として、2020年からの教育の大改革が進められています。こうした変化を見据え、本フォーラムではこれからの教育や人財育成のあり方について、教育改革の最前線で活躍されている方々を講師にお迎えしました。

まず葛岡理事長より「社会課題解決に挑む人財を育成するためには、企業や財団も教育界と連携し貢献していくべき」との開会の挨拶がありました。続いて、基調講演は、教育改革実践家であり、



奈良市立一条高等学校校長の藤原和博氏より「21世紀、正解のない成熟社会で生き残るには?」と題し、ご講演いただきました。「未来の授業」として実践いただいた参加者同士のブレインストーミングでは、まさに生きたアクティブ・ラーニングを肌で感じる事ができ、会場は大いに盛り上がりました。

●葛岡理事長による開会の挨拶



●藤原和博氏による基調講演の様子

この10年で最大の社会変化は、「世界人口のうち50億人以上がスマホでつながること。そのネットワークにAI武装したロボットもつながってくる」ことであり、そういう社会で『なくなる仕事/なくなりにくい仕事/新しく生まれる仕事は何か?』などワークショップ形式で参加者がプレストを繰り返していきました。藤原氏によれば、こうした「正解のない」課題に対して必要とされる力は、正解を早く当てていく「情報処理力」ではなく、自分が納得し、かつ関わる他者も納得できる「納得解」を出せる「情報編集力」であり、これがこれから最も大事な力になるとのこと。冒頭から聴衆の心をとらえて離さない藤原氏の講演は圧巻で、参加者からは「藤原氏の講演にはいつも惹きこまれる」「またぜひ聞きたい」「今後必要とされる能力が分かった」などの声がありました。AI時代にも価値を創出する仕事についてなど、藤原氏の講演は教育現場のみならずビジネスパーソンにとっても非常に学びのある内容でした。

## 教育フォーラム「変わる教育と日本の未来」を開催



●合田哲雄氏による特別講演の様子

続いて、内閣官房人生100年時代構想推進室内閣参事官(前・文部科学省初等中等教育局教育課程課課長)の合田哲雄氏からは、『2020年の教育改革とこれからの学びの在り方』と題し、AIが飛躍的に進化する社会においてどのような力を育てていくべきか、またそのために日本の教育はどう変わっていくのかについてご解説いただきました。

これまでの学習指導要領改訂は「知識」の改訂であったが、今回の改訂では、この知識以外の「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性」がそれぞれどういう構造で成り立っているかを、目に見える形で整理したとの事です。藤原氏のいう「情報編集力」の育成に貢献する内容に学習指導要領も追いつきつつある状況であり、その実現には教育界以外の支援や理解も不可欠だと仰っていました。



●プレストで盛り上がる会場



●交流タイムで歓談する参加者の方々

最後に日立財団より、こうした国の方向性を見据えて開発した理工系人材育成支援プログラム「日立みらいイノベータープログラム」について紹介しました。そのあとの交流タイムでは、本プログラムの教材や授業の様子の動画等もご覧いただきました。

参加者からは「社会の変化を肌で感じられた」「民間と教育現場が連携し未来を担う子どもを育成することは重要」といった声があり、フォーラム全体の満足度は98%と有意義な機会となりました。また、日立財団の成り立ちや「人づくり」にかける想いや姿勢へも理解を得ることができました。



今後も日立財団は「人づくり」の土台である教育を通じた社会課題解決の実現をめざし、教育支援活動を推進していきます。

## 理工系女子応援プロジェクト2017

### イベント開催レポート

## 「これからのイノベーションに女子のワガママを。」

7月22日、日立財団は講談社の協力を得て、東京・護国寺にある講談社特設会場で「これからのイノベーションに女子のワガママを。」をテーマに、女子中高生を対象とした「理工系女子応援プロジェクト2017 未来をつくるリケジョたち!」を開催しました。

リケジョの先輩として、日立のヒューマノイドロボット「EMIEW (エミュー)3」の開発に携わる日立製作所システムイノベーションセンタ知能情報研究部の浅野優研究員が、進路選択の体験談、この仕事を選んだきっかけ、現在研究者として携わっているロボット開発の仕事などについてキーノートスピーチとパネルトークを行いました。その後、ソニーの電子タグセンサー「MESH」を使ったモノづくりのワークショップが行われ、最後には浅野さんも交えた参加者同士の交流会もありました。

参加者の皆さんからは、「一人よりもみんなで話し合うことで可能性が広がる」や「私たちが未来を創っていくという希望がもてた」などのコメントがありました。



●浅野さんによるキーノートスピーチ



●モノづくりワークショップの様子



●パネルトークの様子



●理工系女子応援マガジン Rikejo(リケジョ)

本イベントの詳細レポートは講談社の「Rikejo(リケジョ)」(<http://www.rikejo.jp/report/article/19066.html>) サイトと同社の「理工系女子応援マガジン Rikejo(リケジョ)」でも紹介されています。今後も日立財団では理工系女子を応援する色々なイベントを企画・開催していきます。

## 夏休みに「日立サイエンスウィーク」を開催

8月8～10日の3日間、日立グループ各社と科学技術館の協力を得て、科学技術館サイエンス友の会会員の子どもたちを対象としたセミナーを開催しました。このセミナーは、年に6回、毎年行っているもので日立グループ各社の皆さんが講師となって、子どもたちにモノづくりの経験を通じて培ってきた技術や知識を楽しく伝える体験教室で、毎年6回開催しています。



今年は、夏休みに「日立サイエンスウィーク」として連続で開催しました。(会場：科学技術館実験スタジアムL)

8月8日(火) 水の循環～未来の水のためにできること～  
講師：日立製作所 水ビジネスユニット

8月9日(水) My磁石とMy乾電池でMyモーターをつくらう!  
講師：1時間目/日立金属「磁石ってなんだろう?」  
2時間目/日立マクセル「乾電池をつくってみよう!」  
3時間目/日立製作所 日立研究所  
「クリップモーターをつくらう!」

8月10日(木) 電子顕微鏡を使って観察しよう!  
～知っているものの、知らない世界～  
講師：日立ハイテクノロジーズ

●各回の開催レポートは財団ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/works/human/development.html#Anchor01>

## 地域コミュニティ支援

### 竹内亀次郎記念杯 日立市少年少女スポーツ育成大会

8月19日から21日の三日間、茨城県日立市において、日立財団、日立市体育協会、日立市スポーツ少年団本部が主催する「竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ大会」が開催されました。

この大会は、少年少女の健全な育成を目的として、故竹内亀次郎氏(日立製作所元副社長)の提唱により日立創業の地である日立市において1978年にスタートし、今年で40周年を迎えました。本大会では、軟式野球、バレーボール、ミニバスケットボール、サッカー、バドミントンの5種目に1,182名の小学生が参加し、家族や友達が大声援を送る中、熱戦が繰り広げられました。

また、今年完成した「日立市池の川 さくらアリーナ」(総合体育館)がミニバスケットボールの会場となりました。参加した選手たちは、一つのボールを奪い合いながらコートの中を縦横無尽に駆け回り、元気なプレーを見せてくれました。



●ミニバスケットボールの選手宣誓

## 学術・科学技術の振興

### 「日立スカラーシップ」が生まれ変わりました!

日立スカラーシップは、1984年の創立以来、東南アジアの学術・科学技術発展に貢献すべく、現地の優秀な大学教員を日本の大学院や研究機関に招聘してきました。2016年までの32年間に、400名を超える大学教員を日本に招聘し、現在その多くが母校で教育者・研究者として後進の指導にあたっています。

この度2017年に募集を開始した、新しい日立スカラーシップでは、創立からの思いである“人材育成を通じた学術・科学技術の発展”という軸を引き継ぎつつも、近年の東南アジアの経済発展や研究レベルの向上、また各国の研究分野や支援内容に対する要請変化を背景に、プログラムの内容を大きく見直しました。

キーワードは、“社会課題の解決に資する研究”。新しい募集要項では、従来の自然科学分野に加えて、自然科学と社会科学の融合分野も募集対象としたうえで、次表の3分野における社会課題に焦点を当て、その解決に資する研究を支援していきます。

2017年10月末に募集を締め切り、その後書類選考、面接、選考委員会を経て、2018年5月頃に招聘者を決定、翌月より随時招聘を開始する予定です。

募集の締め切りは2017年10月末、その後書類選考、面接、選考委員会を経て、2018年5月頃に招聘者決定、翌6月より随時招聘を開始します。

#### ■日立スカラーシップのリニューアル内容

	変更前	変更後
プログラム	①博士課程留学支援プログラム(3年間) ②短期研究者招聘プログラム(最大3ヶ月)	研究支援プログラム(最大1年間)
研究分野	自然科学	社会課題解決に資する基礎的・融合的研究 (1)エネルギー・環境(6分類) (2)都市・交通(5分類) (3)健康・医療(5分類)